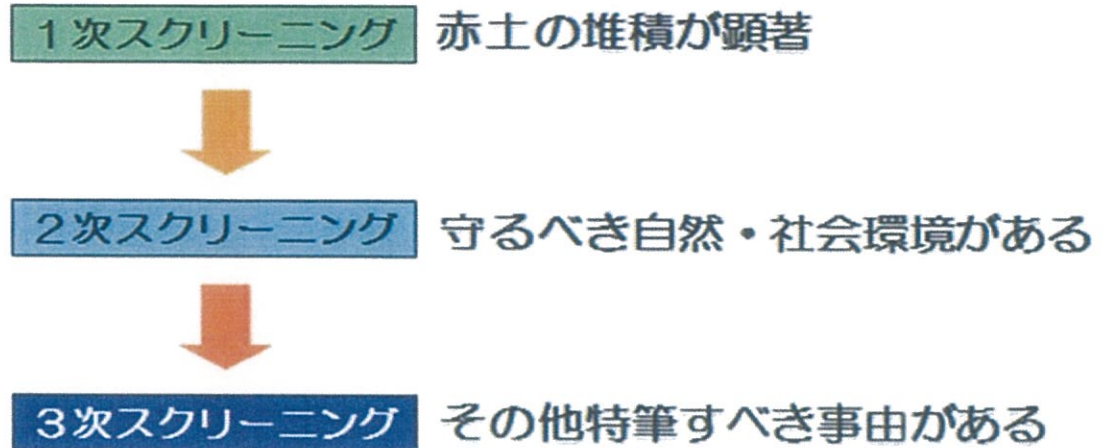


重点監視海域の選定について

スライド17

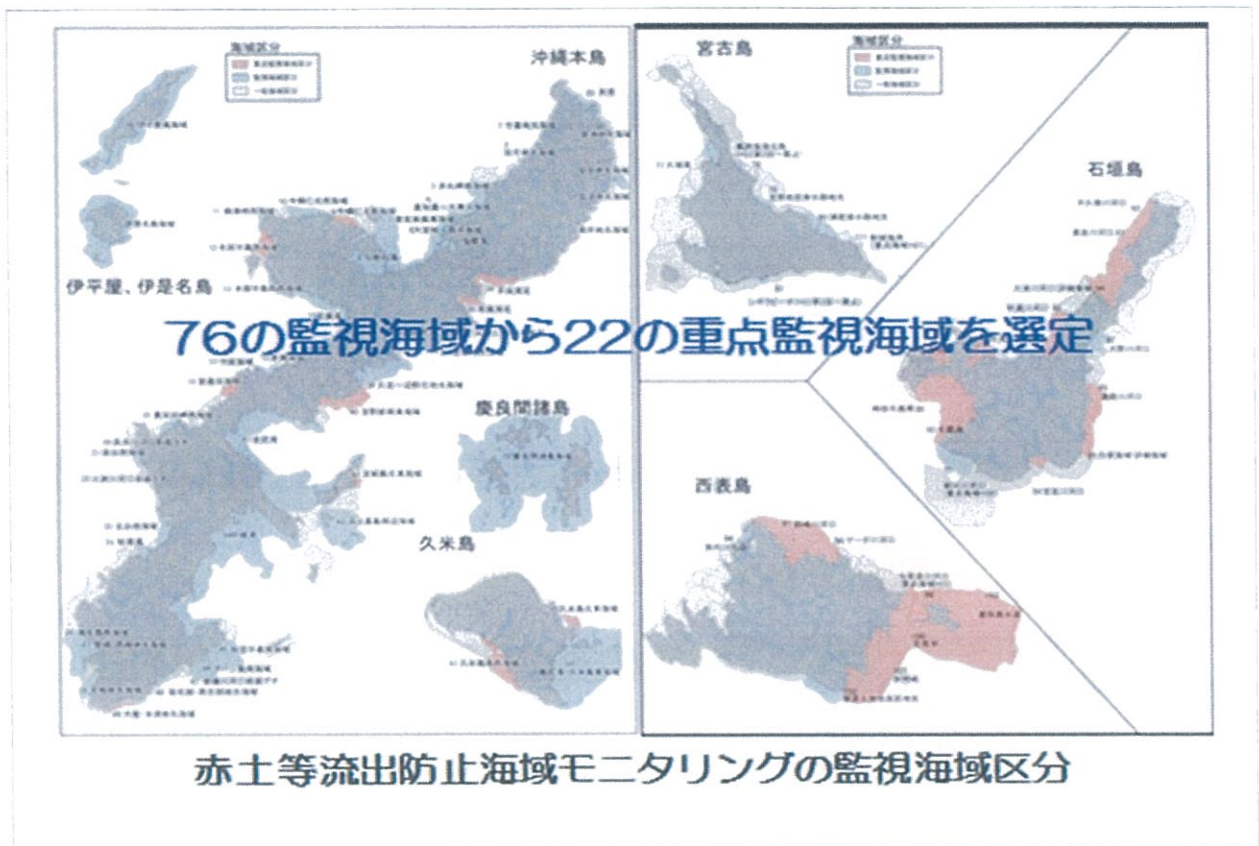
どこを中心に対策をとった方がいいのかを考えています。

重点監視海域の選定方法



スライド18

こういった方法で海域を選ぶかという、まず赤土の堆積しているところ、次に守るべき自然や社会環境があるか、最後にその他特筆すべき点があるか、という順で行います。



スライド19

その考えに基づいて、重点監視海域を22箇所選定しております。

環境保全目標について

スライド20

赤土等に係る環境保全類型【サンゴ場】

類型	堆積指標 SPSS(kg/m ³)	海域の概観
サンゴ場 AA	1～10未満 (ランク3～4)	底質は、砂をかくきざると懸濁物質の舞い上がりが認められる程度。主としてサンゴ礁生態系が見られ、樹状のミドリイシ類やコモンサンゴ類の群落等がサンゴ礁内に発達し、大規模群落を形成することもある。サンゴ群落内の岩盤には青珊瑚を好むタワシウニ、キクザルガイ科、ヒメジャコガイ科、サボテンクサ等が局所的に生育し、群落間の砂地にはサツマビナ等の貝類が産生する。また、周辺ではサンゴ礁を利用するスズメダイ類やベラ等の魚類が多く見られる他、色とりどりの魚類が産生する。
サンゴ場 A	10～30未満 (ランク5a)	底質は注意して見ると懸濁物質の存在がわかる。主としてサンゴ礁生態系が見られ、サンゴ礁を中心とした良好な生態系が維持されている。樹状サンゴから塊状サンゴまで多様なサンゴ類が生育し、周辺には青珊瑚を好むベントス類・海筆類、およびサンゴ礁を利用するスズメダイ類を中心とした魚類が産生する。
サンゴ場 B	30～50未満 (ランク5b)	底質の表面にホコリ状の懸濁物質がみられる。透明度が著しくなり、サンゴ礁に影響が出始める。また、樹状サンゴの出現割合が減少し、塊状サンゴの出現割合が増加し始める。サンゴ礁を利用する魚類が減少し始め、カザリハゼ等の砂、砂泥に住む魚類の出現が増加し始める。
サンゴ場 C	50以上 (ランク6～8)	一見して赤土等の堆積がわかる。底質成分で赤土等が色強く懸濁。明らかに人為的な赤土等の湧出による汚染があると判断。樹状サンゴ類の群落はほとんど見られず、塊状のサンゴが大半を占める。岩盤上にはキクメイシモドキ、ニフトリガキ、ヒメテンクサ等、砂泥上にはカニノテムシロ等が出現し、死産にはタカニハゼ等の死産幼体のハゼ類が出現する。

※ 礁池内の主に造礁サンゴ類が生息する場を「サンゴ場」と定義した。

スライド21

サンゴ場は、4つの類型に分けられます。